



紅葉が美しい季節になりました。今年もあとわずかなとなり、年と共に一年の過ぎ去る早さが身をもって感じられるようになりました。今日も過ぎ、明日も過ぎと時の流れに身を任せて生きているだけの人生に、真宗大谷派の僧侶、藤代聡磨氏の言葉が響いてきます。

「これからが これまでを決める」。過去の後悔や、苦しみ、悲しみは消したり、変えたりはできないけれども、これからの生き方でその意味は変えられるという、現代に生きる私たちに大切な方向性を示唆している言葉だと思うのです。「これまでがこれからをきめる」のではなく、「これからがこれまでを決める」ということなのです。

そう諭されてくると、残された人生がたとえわずかであったとしても漫然と生きていくわけにはいかないなと思えてきます。また同時に生きることへの意欲と希望が湧き上がってもきます。私たちに与えられているのは「これから」しかありません。未来の人生をどう生きて行くのか、まさにこれからが私の人生のすべてが総括されてくる大切な時なのです。

お内仏のお給仕に学ぶ

—お仏供(お仏飯)について—



お内仏のお莊嚴は、阿彌陀如来の願いによつてひらかれる浄土の世界を表現しています。ですからその莊嚴には私たちがこつこつ「阿彌陀如来のおこころに触れていく」という意味が込められているのです。お仏供も浄土の世界を表現するためのお内仏のお莊嚴のおかざりの一つであり、多くのいのちをいただいて生きていることを常に忘れないように心するご縁としてお備えしているのです。



1 仏供の場合

大谷派のお仏供は「盛槽もてうけ」という円筒形の筒に白飯を詰めて突き出して仏器に盛ります。この盛り方は蓮の実の形を表しています。ちなみにお西さんでは実もりといつて「こんもり」と山状に形を整えて盛ります。

阿彌陀如来像の前には2仏供または1仏供を備え、お脇掛けが親鸞聖人、蓮如上人の御影の場合はその前にもお備えします。帰命尽十方無碍光如来号(南無不可思議光如来(九字名号))の場合はお備えしません。

朝ご飯が炊けたらまずはお仏供をつくり、朝のお勤めの後にお備えをし、昼にはお下げします。(お備え…お仏供の「おそなえ」は「お備え」と書きます)



令和3年度 報恩講・門徒総会 (予定)

(午前のみ)

期日 令和三年十二月十二日(日) 午前9時半～十一時半
 法話 倉角秀悟師 (安八 教順寺住職)

お齋はお持ち帰り用として準備いたします。法話終了時に本堂にてお渡しいたします。

一日程—お勤め 九時半～十時十五分
 法話 十時二十分～十一時二十分
 門徒総会 十一時三十分～

おみがき

十二月八日(月)

9時より 1協力のよろしく願っています。



今月から冬季時間で始まりましたが、皆さんお忘れなくご参加いただけました。今年はコロナの関係で数回しか開くことができませんでしたが、来年は何とか続けてできそうな気がしてまいりました。

今回は法然上人について正信偈に学びました。ビデオを観た後、若院が解説を加えました。

後半は前回に引き続き、和讃を学びました。まずは私たちが同朋奉讃として読誦することが多い浄土和讃の「弥陀成仏のこの方は」の一首から学び始め、最初の4句を学びました。ほとんどの方は暗記されているようでしたが、その意味については結構難解のようでした。

次回の十一月には「知恵の光明はかりなく」からの4句を学ぶ予定です。

十一月十三日(土) 6時半〜 本年最後の学習会となります。

今月の掲示板

亡くなった母に

電話しよう

電話番号が

南無阿弥陀仏

だとは知らなんだ

あるお寺の亡くなられた坊主さんの詩集『知らなんだ』にある言葉

私たちは忙しい日常の中で、ふと心は「き人を思い浮かべることがあるものです。」

あの時の、あの言動が鮮明に思い起こされ、そこには懐かしさだけでなく深い反省や、感謝の思いでもあったりもします。

「南無阿弥陀仏」とお念仏を申すところに、またその人との新たな出会いが生まれてくるのです。

葬儀や法事、月命日はその大切な「縁として受け止めていきたいものです。」



光受寺御遠忌法要



こころの散歩

8回目



新コーナー

十二回連載

樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛二一マ
南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

問いつける歩みとともに

自然のはたらきの驚異

人間はじめあらゆる生物は自然のはたらき(法則)のもとで生かされていますが、何百万もの膨大な生物の種類をバランスよく生かすのは、自然のはたらきであり、その巧妙さに驚くばかりです。体のはたらきをみても、各臓器の複雑高度なはたらきは体全体で統合調和されて、生命活動が営まれているすがたは、まさに神わざというほかありません。

さらに視野を広げ、地球規模でみますとプレートとの動きがあります。地球は13枚ほどの地殻からできており、これが一年で数センチの速さで動いています。これを「プレートテクトニクス」と言いますが、数千年かけてプレートどうしが衝突し、台地がせりあがって巨大な山脈を形成するのです。8千メートルを越すヒマラヤ山脈、ヨーロッパのアルプス山脈、北アメリカのロッキー山脈などプレートの動きでできたのです。

こうしてみると、岩石を押し曲げ数千メートルまでせり上げる力は自然の驚異というほかありません。

